



プロフィール

藤本 政明

1953年岡山県邑久郡邑久町生まれ。

1979年鳥取大学医学部卒業。

岡山大学医学部耳鼻咽喉科助手、国立岩国病院、高松共済病院耳鼻咽喉科医長を経て、1990年より岡山大学医学部耳鼻咽喉科講師。1991年より1年間カナダトロント大学留学後、1994年より岡山市江崎に藤本耳鼻咽喉科クリニックを開業。慢性中耳炎の手術、慢性副鼻腔炎の手術経験豊富。医学博士。

耳鼻科開業医雑感Ⅲ

藤本耳鼻咽喉科クリニック 藤本 政明

開業して3年半が経ちました。この間、急性化膿性中耳炎を早く治すにはどのような治療が最もよいか、私にとって毎日、毎日頭を悩ませる最大の問題でした。

中耳炎は鼓膜切開をしたほうが早く治るのであるのか？抗生物質は、どのくらいの期間飲ませたら良いのだろうか？ついこの前治った中耳炎がすぐまた再発したのはなぜなのだろうか？中耳炎が治りきらず鼓膜の向こうに水が溜まったままとまっている（滲出性中耳炎）のはどうしたら治るだろうか？など、通院しておられる患者さん方も当然疑問を感じておられるこれらの問題に、私自身も毎日悩みながら診療をしてきました。

急性化膿性中耳炎を起こす細菌は、この数年間でどんどん変わってきています。つまり、最近の中耳炎は、これまでの中耳炎よりはるかに治りが悪くなっており、抗生物質の選択や投与期間も以前とは変えていかねばならない状態となっております。

“鼓膜切開をすれば、中耳炎は早く治り再発しにくい。”という報告がある一方、“鼓膜切開をしてもしなくても中耳炎の治りには関係なかった。”という論文も数多く報告されているのです。結局鼓膜切開については結論は出ていないのが現状です。

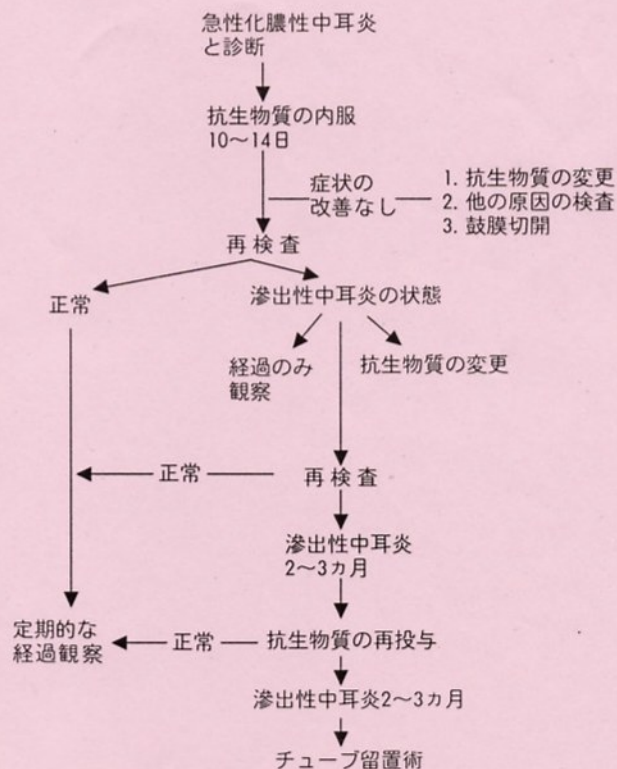
今のところ、私としましては、“Otitis Media in Infants and Children”（Bluestone & Klein 著）という本にある治療法がもっともよいのではないかと考えております。

【急性化膿性中耳炎の治療方針】

- 中耳炎と診断されたら、まず抗生物質を4日飲む。この間、痛みや発熱があれば、解熱鎮痛剤（ねつさまし）を使うが、解熱鎮痛剤を使っても痛みや発熱がよくなかなかたり、何回も解熱鎮痛剤を使わねばならない時は、鼓膜切開をする。
- 4日後に受診し、内服中の抗生物質が効いているようなら、続けてその抗生物質を10日～14日内服する。効いていないようなら、抗生物質を変える。

場合により鼓膜切開をして膿を検査に出す。

- 2週間後に完全に治っていれば、薬を止めて経過を観察する。完全に治っていなければ、薬を変えてもう少し飲むか、薬なしでそのまま経過を観察する。
- 経過を観察していてもよくなる時は、ある時点でもう一度異なる抗生物質を飲んでみる。
- 3ヶ月以上鼓膜の向こう（中耳）に水が溜まっている場合（滲出性中耳炎の状態）あるいは急性化膿性中耳炎を繰り返す場合は、鼓膜にチューブを留置する。



《患者さんへのお願い》

処方されたくすりは、1日三回きっちりと飲んでください。